

夏の交通事故防止運動

7月16日から25日までの10日間、夏休みにはいると、子供が屋外で活動する機械が増えるとともに、夏の暑さや行楽による過労運転、スピードの出しすぎなどの危険・無謀な運転といった、夏特有の交通事故が増加傾向にあることから、県民総ぐるみで、それぞれの交通安全意識を高め、交通ルールの厳守と正しい交通マナーの実践を習慣づけることにより、交通事故の防止を図ることを目的に実施します。

【交通事故防止のお願い】



「セーフティアップ“4S”プラス“アイ”(交差点)作戦」を展開中です。

最高速度違反による死者が多いことから、スピードダウンに努めて下さい。

飲酒運転は悪質違反として厳しく処罰されます。

命を守るシートベルトとチャイルドシートの正しい着用に努めて下さい。

高齢者被害の交通事故が多くなっています。高齢者には、

思いやり運転に努めて下さい。

交差点では、安全を確認してから通行するようにしましょう。

“4S”のSは、死亡事故の大きな要因となっているスピード、酒飲み運転、シートベルト・チャイルドシート、シルバー(高齢者)の頭文字を採っています。

“アイ”は、インターセクション(交差点)の頭文字及び人命尊重「愛」を意味します。

【平成18年建設業における労働災害発生状況】

平成18年の建設業における死亡災害発生状況を種類別にみると、墜落が190人(37.4%)、建設機械、クレーン等による災害143人(28.2%)を占め、依然として高い割合を占めている。工事種類別に見ると、土木工事では前年に比べ7人(3.4%)の減少、建築工事では22人(9.8%)の増加、となった。また、災害の種類別にみると、土木工事については、墜落による災害が46人(23%)と最も多く発生している。建築工事についても、依然として墜落による災害が110人(48.9%)と多発している。中でも、低層住宅等建築工事の割合が62人(56.4%)と高い割合を占めている。



【熱中症に注意】

熱中症の発生しやすい条件として、気温、湿度、風速、輻射熱などの気象環境が影響を与えています。一般的には、気温、湿度が高く、風が穏やかな日には熱中症が起こりやすいとされております。

熱中症を防ぐには、関係者が熱中症に対する十分な認識を持つことが大切です
福島県内における熱中症による労働災害発生状況(カッコ内は死亡者数)

年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
死傷者数(人)	1	0	1	6(1)	0	2	2	7